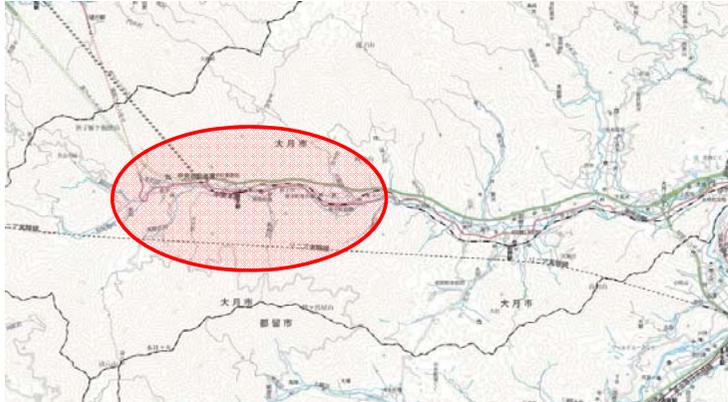
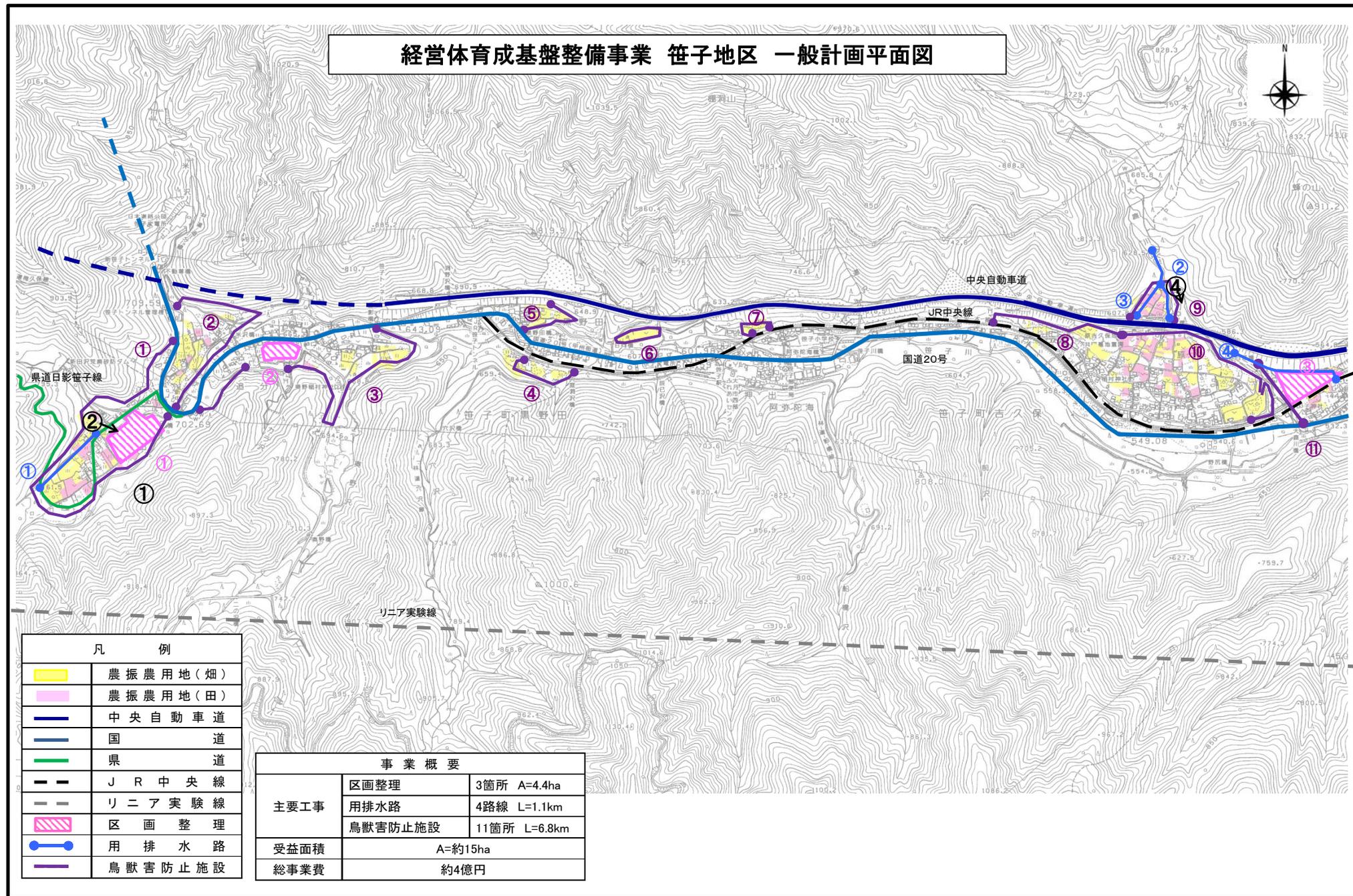


1. 事業評価説明シート

事業名	経営体育成基盤整備事業(国補)	事業箇所	大月市笹子町	地区名	笹子	事業主体	山梨県															
<p>(1) 事業概要</p> <p>①課題・背景 本地区は大月市の西部に位置し、笹子川の河岸段丘沿いの国道20号沿線に分布する急峻な土地に農地が細長く点在している。主要作物は水稻や大豆類であるが、地区内の農地は狭小かつ不整形など営農条件の不利地が多く、また高齢化・後継者不足等の課題から耕作放棄地の増加が深刻な状況である。 一方、近年は地元の酒造会社と地区周辺の農家が連携し酒米を作る契約農家が増加しつつある。このため、区画整理による担い手への農地集積・集約化を進めるとともに農業生産基盤整備を総合的に実施し、生産性の向上と農業経営の安定化により、地域農業の持続的な発展を図るものである。</p> <p>②整備目標・効果</p> <p>□主要目標 ○農業生産力の向上 ・農業所得増加額 2,961千円/ha≧810千円/ha※</p> <p>□副次目標 ○農業用排水能力の向上 ・施設老朽度 使用年数35年÷耐用年数32年=1.09≧1.0※ ・(計画排水能力0.21m³/s)÷(現況排水能力0.15m³/s)=1.37≧1.0※ (※評価基準値)</p> <p>□副次効果 ○遊休農地の解消 ○重要プロジェクトとしての位置づけ (新・やまなし農業大綱)</p>				<p>(3) 事業の妥当性評価 妥当・妥当でない</p> <p>①公共関与の妥当性(行政が行うべき事業か) <input type="radio"/> <input type="checkbox"/> ・本地区は食料・農業・農村基本法に位置づけられている農業の持続的発展、食料の安定供給、多面的機能の発揮に資することから行政が行うべきである。</p> <p>②事業執行主体の妥当性(県が行うべきか) <input type="radio"/> <input type="checkbox"/> ・土地改良法施行令第50条第4項により県が事業主体となっていくべきものである。</p> <p>③経済妥当性 <input type="radio"/> <input type="checkbox"/> 費用便益費 便益(B)/費用(C)=1.52>1.0 ・便益(B)=838百万円、・費用(C)=550百万円</p> <p>④事業実施・規模の妥当性 <input type="radio"/> <input type="checkbox"/> ・営農条件を改善する上で必要な整備量としている。</p> <p>⑤整備手法の有効性 <input type="radio"/> <input type="checkbox"/> ・受益面積規模、事業対象工種から、経営体育成基盤整備事業で対応することが妥当である。</p> <p>⑥環境負荷への配慮 <input type="radio"/> <input type="checkbox"/> ・工事の際は、環境等への影響を最小限にするよう措置を講じる。</p> <p>⑦事業計画の熟度 <input type="radio"/> <input type="checkbox"/> ・早期着工の要望有り</p> <p style="text-align: center;">総合評価 [貢献度ランク：a] <input type="radio"/> <input type="checkbox"/></p>																		
<p>(2) 整備内容</p> <p>①整備内容 区画整理 A=4ha、用排水施設 N=4箇所、鳥獣害防止施設 11箇所</p> <p>②着手年度 平成30年度 ③完了見込年度 平成34年度</p> <p>④総事業費 約4億円 (国費2.2億円(55/10) 県費1.1億円(27.5/10) 市費0.7億円(17.5/10))</p> <p>⑤全体計画 (年度別整備内容) (事業費)</p> <table border="0"> <tr> <td>平成30年度</td> <td>測量・設計</td> <td>30百万円</td> </tr> <tr> <td>平成31年度</td> <td>区画整理、用排水路</td> <td>120百万円</td> </tr> <tr> <td>平成32年度</td> <td>区画整理、用排水路</td> <td>130百万円</td> </tr> <tr> <td>平成33年度</td> <td>区画整理、鳥獣害防止施設</td> <td>80百万円</td> </tr> <tr> <td>平成34年度</td> <td>鳥獣害防止施設</td> <td>40百万円</td> </tr> </table> <p>⑥既整備内容・期間・事業費 ・該当なし</p>				平成30年度	測量・設計	30百万円	平成31年度	区画整理、用排水路	120百万円	平成32年度	区画整理、用排水路	130百万円	平成33年度	区画整理、鳥獣害防止施設	80百万円	平成34年度	鳥獣害防止施設	40百万円	<p>【事業位置図等】</p> 			
平成30年度	測量・設計	30百万円																				
平成31年度	区画整理、用排水路	120百万円																				
平成32年度	区画整理、用排水路	130百万円																				
平成33年度	区画整理、鳥獣害防止施設	80百万円																				
平成34年度	鳥獣害防止施設	40百万円																				

2. 添付資料シート(1)



2. 添付資料シート（2）

<p>整備前</p> 	<p>整備後</p> 	
<p>① 農地集積・集約化により、担い手農家が確保され酒米や野菜生産へ作物転換を推進する。</p>	<p>② 区画整理エリアは狭小かつ不整形であり農地条件が不立ため、遊休化した農地が点在している。</p>	
		
<p>③ 地区周辺では、酒造会社との契約農家により酒米生産が行われている。（追分工区 営農イメージ）</p>	<p>④ 空石積み用排水路のため、漏水が多く安定した用水の確保が困難な状況で、維持管理にも苦慮している。</p>	